



【「主体的な深い学び」の取組み！かながわ次世代教養：課題研究発表大会の開催】

平塚中等教育学校では、次世代のリーダーの育成を目指して「かながわ次世代教養」（総合的な学習の時間）を設けている。前期課程生では、IT 活用、地球環境、伝統文化・歴史、英語コミュニケーションの4つのテーマにそった体験的学習を行い、それぞれのテーマごとに学習成果として冊子等にまとめている。4年次生からは、各自でテーマを設定し、調査研究を行い、その研究成果を論文としてまとめると共にプレゼンテーションによる発表を行っている。この学習を通して、資料を活用しながら自分の意見や考えを効果的に伝えるスキルを学び、国際社会で幅広く活躍する人材を育成することを目的としており、本校では「主体的な深い学び」をすすめる上で重要な学習として位置づけている。しかしながら、近年の生徒の様子をみると、「何を研究して、どのように論文・プレゼンテーションにまとめるのか、よくわからない」といった感想があり、先が見えない取組みに不安を抱えている生徒も散見される。そのため、今年度は、5年次生の研究の中で、特に優れた取組み、模範となる取組みをしている生徒を選考し、その研究内容を5年次生はもとより、4年次生の研究の一助とするために、4年次生・5年次生合同で11月2日（木）に本校体育館にて研究発表大会を開催した。

当日は、横浜国立大学の神藤拓実 助教、神奈川大学の望月耕太 助教、神奈川県教育委員会高校教育課の嶋本信之 指導主事の3名の講師をお招きし、研究の視点や分析方法、プレゼンテーションの発表や論文のまとめかたなどをご指導・ご助言いただいた。今回は、発表時間と講評時間の都合上、代表して4名の生徒が発表した。

はじめの発表者は、5年1組の落合瑠威さん。テーマは「ワラジムシの行動～交替性転向反応

における BALM 仮説の関与～」である。研究の目的は、「BALM 仮説を用いて交替性転向反応の起こる仕組みを解明する。交替性転向反応の自然界での存在と有用性について考察する」である。実験結果に基づき検証を行い、自分の考え（仮説）を論じている非常に興味深い内容であった。2番目は、5年3組の後藤泰河さん。テーマは、「きょうだいと出生順～性格への影響～」である。研究動機として、「長子、中間子、末子、一人子では、親のしつけ等の影響により性格に違いがあるのでは」、また、「きょうだい構成や出生順は人との相性にも影響しているのでは」といった研究である。講師からは、きょうだい構成の分析の仕方、根拠の示し方に注意が必要であるとの指摘をいただいた。

3番目は、5年2組の有田隼人さん。テーマは「戦争をなくす方法」で、国際連合の役割を踏まえて、戦争に関わる人々を4つのカテゴリーに分け仮説を設定し自分の考えを論じている。質疑では、会場生徒からカテゴリー分けの根拠を問われる場面もあった。

最後の4番目は、5年4組の青山みゆきさん。テーマは「地球の定員」である。研究動機として、「この先人口が増加すると共に経済発展によりエネルギーが大量消費され、地球環境問題が深刻化するのでは」、また、「そもそも太陽が地球に与えるエネルギーにも限りがあるので、人口増加によりどの位の太陽エネルギーが必要になるのか」といった視点で地球が受け取るエネルギー量及び、この先の地球規模の人口から供給カロリーを計算し、需要と共有の比較を行うといった研究である。丁寧に計算をしながら算出した値を基に自分の考えを論じている。

3名の講師からは、それぞれの研究に対しての成果と課題を指導・助言いただいた。

今回の研究大会で共有した内容を踏まえ、さらにレベル高き研究論文となることを期待したい。